

「高城プライド」 ～心と形を整える～

令和3年5月21日(金) NO7 文責 木下 文秋

誹謗中傷 (ひぼうちゅうしょう) 「根拠のない悪口を言いふらして傷つけること」

プロレスラーの木村花さんという方が亡くなって23日で一年になるそうです。彼女は「テラスハウス」という番組に出演していて、その中での彼女の言動に対し「消えろ」という言葉をはじめ、文字に起こしたくないような悲しいコメントが毎日100件以上寄せられ、それを苦にして自らの命を絶ちました。私は木村さんのこともこの番組のことも知りませんでしたが、^{とくめい}匿名という「わがまま」を盾に^{たて}22歳の尊い命が失われたことは残念です。総務省はネット上の匿名の発信者の特定をするための制度改革を検討すると発言しています。このことを受けて「軽い気持ちで書き込んだけど罪になるのか」「本当に特定されるのか」という相談が弁護士の所にたくさん届いたそうです。SNSやツイッターなどで自分の情報を公開する若者が増えています。今回の事件には「発信者の情報が特定されない」という危うさがあります。SNSなどの書き込みをしても、それがどこの誰なのか分かる制度が確立されればそのほとんどがなくなるはずです。インターネットが普及して、世の中はとても便利になりました。コロナの影響でリモートによる学習も行われています。しかし、便利さの影には危うさが潜んでいるのも事実です。こんなことを書き込んで本当にいいのかと一度立ち止まって考え直す人ばかりではありません。「どうせばれない」という盾^{たて}を持つ人ならどんなことでも書いてしまいそうです。これまでもLINEのやり取りの中で^{つら}辛い思いをして、命をなくした不幸な中学生や高校生がたくさんいます。苦しい時や辛い時に人を地の底から拾い上げて救ってくれるのはロボットではなく人です。人にはぬくもりを感じる優しい言葉があります。それで救われる人はたくさんいます。しかし、残念なことに人をダメにしてしまうのも人です。病んでいる人に対して、これでもかと非情な言葉を吐き捨てる人がいます。皆さんはどちらの人になりたいですか。「むかつく」「キモイ」「うざい」なんていう身勝手な言葉で、人を苦しめる社会の在り方を改めていくのはこれからの若者です。東日本大震災の混乱の時、被災地に届けられる支援物資に「我先に」ではなく、きちんと列を成す日本人の姿は世界中から賞賛されました。ちなみに、20日の新聞にサイトで中傷をした男性に129万円の支払いが命じられたと書かれていました。